

高橋 慶多「現代小学生の生活スタイルと学力の関係」

小学生の生活スタイルが最近マスコミでも問題として報じられるようになりました。朝ご飯を食べないとか、食べても菓子パン程度、あるいは夜更かししてテレビやゲーム、インターネットに熱中するといった現象です。そして、こうした生活スタイルの変化が学力の低下にもつながっているという説があります。昔から、早寝早起きというのはよく言われていることですが、朝ご飯をバランスよく食べる子は学校の成績も優れているとか。まずは生活のリズムを規則正しくすることが、成績を上げる前提なのかもしれません。

高橋さんは、中学生の妹を見ていて生活スタイルの変化を実感し、そこから上記のテーマに関心をいただくようになったといえます。

ただ、脳科学や生理学などの知見を駆使して、生活スタイルと学力の因果関係を解き明かすのは、これまで学んできた専門分野からしてかけ離れています。そこで、実証研究としてアンケート調査と学力試験を行い、両者の因果関係をグラフ化して明らかにしようという作戦を考えました。

ところが、現実はなかなか厳しいもので、思った通りにはいきません。高橋さんはある小学校に、調査への協力を求めましたが、学力試験の結果を外部に公表することは子どもの個人情報保護に抵触するという理由で、アンケート調査のみ行うことが許されました。そのためアンケート調査と学力との因果関係をデータ化して自ら実証することは断念し、既存の統計データを活用せざるをえませんでした。

こうした調査の制約はありましたが、小学校のご協力をいただき、無事にアンケート調査を実施することができました。このアンケート調査で優れている点は、既存の調査を見倣って設問や選択肢を設計していることと、既存の調査と比較して自らの調査結果の特徴を見出そうとしていることです。既存の調査と比較参照することによって、自らの調査結果がどのような意味を持っているのか、全国平均と比べてどんな特徴があるのかが明らかになり、より深い分析が可能になるためです。

今回の論文ではアンケート調査による量的な把握が主な方法論となりましたが、例えば学校や家庭で小学生に対してどのような生活指導をしているのかを調べたり、保護者の仕事・生活の状態を聞いたり、あるいは小学生を学年別に調べたりすることで、より細かな違いが見えてくるでしょうし、生活スタイルの改善に向けた方向性を考えるヒントも得られるのではないのでしょうか。